

『主を畏れることは知恵の初め。』

箴言 第1章7節

◎6月の予定

- 1日(火) 校内研修会
- 1日(火) ～2日(水) 中間試験(中)
- 3日(木) 歯科検診
- 8日(火) 聖書教室、尿検査(二次)
- 18日(金) 教務委員会
- 19日(土) 東日本小学校教職員協議会
- 22日(火) 教職員協議会
- 25日(金) デイキャンプ(小3・4年)
- ◎7月の予定
- 3日(土) 学校説明会①
- 6日(火)～8日(木) 期末試験(中)
- 9日(金) 時間割変更期間 21日まで
 デイキャンプ(小1・2年)
- 16日(金) 教務委員会



春の遠足 小 五月十一日(火)

小学校1・2年
(高田公園)



小学校3・4年
(大磯城山公園)



小学校5・6年
(旧吉田茂邸)



中学校(十三日)
残念ながら雨天のため中止となりました。



お知らせ



光の子らしく
歩きなさい
エフエムの皆様への手紙 第5巻8月号 口
福野

学園ホームペ
ジをリニューアル
致しました。ぜひ、
ご覧ください。

◎今月の行事から

【音楽会】

六月中旬に予定されていた学園の音楽会。いつもならば各クラスで練習に取り組みながら本番に備えていきましたが、本年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、日程を再検討することとなりました。難しい状況ですが、開催できる道を探していきたいと思えます。日程が決まりましたら、改めてお知らせします。

【小学校 デイキャンプ】

今年度予定していたデイキャンプですが、こちらも新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けて変更を余儀なくされました。

◆ 一年生と二年生で予定されていた、校内デイキャンプは、当初の予定通り、七月九日(金)に実施する方向で準備を進めています。

◆ 三年生・四年生は校内で一泊する予定でしたが、やはり現在の状況では、宿泊をすることが難しいという判断に至りました。検討の結果、六月二十五日(金)のみを使って、普段できない学びができる機会を準備中です。日程が変更になりましたので、六月二十八日(月)の代休はなくなり、通常の登校になります。

時間を上手に使うこと

学園長 小川 正夫

感染力の強いコロナウイルスのパンデミックで東京オリンピック・パラリンピックの開催が危ぶまれています。目指す目標に向かう若いアスリート達の活躍は、みんなきらりと輝いて、澁刺として本当に美しく、若いって素晴らしいと思います。

なかでも水泳の池江選手、闘病生活を克服し、笑顔で復活して活躍する姿や言葉は感動的で胸が一杯になりました。

前任校の校長だった頃、子ども達に、大きな夢を実現した人に直接会って話を聞く機会を用意し、憧れを持って欲しいと考え、男子校でしたので、世界的な探検家植村直己さん、野球界巨人のヒーロー長嶋茂雄さん、ボクシング世界チャンピオン具志堅用高さん、柔道の金メダリスト古賀稔彦さんなどをお招きして、お話を聞きました。

外国人の方では、力強く美しい泳ぎをする」と定評のある、マット・ビオンディさん、ラウディ・ゲインズさんの二人の金メダリストを招待したことがあります。

マットさんとラウディさんが模範水泳を披露した後、数人の代表が指導を受け、話を聞き、子ども達は大喜び、握手してもらった低学年の子どもは興奮して「校長先生、僕。パワーをもらった、水泳強くなります」と可愛い

報告をしてくれました。直接指導を受けた高学年の子どもは「ポイントがはっきりしていて、適切で、とても分かりやすかった」と目を輝かせていました。

マットさんもラウディさんも人柄が穏やかで学業成績も良かったそうで、数々の水泳大会やオリンピックで何度も優勝し、金メダルを獲得したスポーツマンです。

「練習、勉強、若者の生活をどうやって両立させているのか知りたい」という体育科の先生の言葉を思い出し、同じ言葉で質問すると少し考えていましたが、迷わず「時間を上手に使うようにしています。時間を上手に使えば、結構楽しい生活を送ることができます」というマットさんの言葉に続けて、ラウディさんも、「僕もそう思います」と言っていました。練習が大変だとか、苦しいとか、忙しいといったような言葉は一言もありませんでした。

子ども達への話を終えた後、一緒に日本食を囲みましょうと誘い、メニューを紹介しながら選んでもらっているとき、マットさんが「僕たちは、友達（魚）は食べないのです」という印象的な言葉が返ってきて成程と思つたことを覚えています。

この三月の末、五三歳の若さで亡くなった柔道界の金メダリスト古賀稔彦さんをお呼びしたときは、笑顔いっぱい、子ども達一人ひとり、全員に金メダルを回して持たせてくれました。「おもい」「すげえ」「かっこいい」

と歓声をあげながら目が輝いていました。

そして、子ども達に向かつて「君たちは、オリンピックで優勝し、金メダルを手にした古賀選手は、きっと、毎日毎日、何時間もかけて練習していると思うかもしれないけど、僕は一日二時間くらいしか練習しません。でも、練習の時は、練習と思わず、本番の試合と同じ時間を一日中練習していたと感じるくらい、くたくたになるまで、休まずに全力でやります。本番の試合が、練習の時に身体で覚えたような試合になつては困るからです。君たちの勉強も長い時間をかけてやるのではなく、けじめをつけて、集中してやること、時間を上手に使いなさい」と言っていました。

種目は違つても、三人の世界オリンピックチャンピオン金メダリストが同じように、「時間を上手に使うように」と言っていました。

昔から言われている言葉ですが、「時間を制する者は人生を制する」「時間は生きている間、つまり命のこと」「時間を大切にすることは命を大切にすることと同じ」とも言います。

誰でも、生まれた時から、与えられた時間は一日二十四時間で平等です。自分はオリンピックの選手とは違うなどと思わないで、小さな、目の前の出来ることから、命を大切に思うように時間を大切に、自分で時間をコントロールする知恵と勇気を持つて実行してみると、案外、色々なことが出来るかもしれません。

バトンをつなぐ

旧職員 池澤 登志美

この夏の東京五輪・パラリンピックにむけて聖火リレーは今日日本各地を走り続けています。コロナ禍で開催が不透明な中でも準備は着々と進んでいます。

さて、時間が少し逆上りますが、昨年9月19日付朝日新聞『声・語りつぐ戦争 平和のバトン』欄に、東京在住の方が投稿された記事は私の心に温かい絆をつないでくれました。

内容を要約すると昭和20年代後半、中学生だった投稿者は、エリザベス・サンダースが大磯に出来たことを知り、何か手助けをしたかと思ひ友達と相談して、よだれかけを30枚ほど作って大磯を訪ねた。トンネルを抜けると海が広がり、建物の窓から幼い子供たちが手を振って嬉しそうに迎えてくれた。思えばあの子らも今は70代、どんな人生を送っているのだろう。後になって創設者の澤田さんは三菱財閥の出身で、聖ステパノ学園を創ったことを知った。命をかけた偉業は、戦後の厳しい時代の日本の誇りであり、私達にとって最も貴重な心の財産であるという内容でした。

長年勤めさせて頂いた学園に、今も心を寄せて下さることに敬意と感謝をお伝えしたいと思ひ、すぐに新聞社を介して、投稿者に手紙を書きました。子供たちを守り、日々奮闘していた澤田先生の姿や、9月19日は先生の

お誕生日であり、今は学園の創立記念日と定め、礼拝を守り、学園の歴史と未来に思いを馳せる一日である。

何回か手紙を交わすうちに、投稿者は私と同じ年齢の方であることもわかりました。毎年八月半ば頃の「声」欄の記事は、読むのも切ない事ばかりで少女時代のことを思い出し、投稿したのだと。そしてこれらの新聞記事や手紙は、床の間の朱色の文箱に収めて時々読ませて頂いております。幸せを感じる私の宝の箱ですとされたためでありました。

このように令和2年9月19日は、奇遇と思ひえない、365分の一のお誕生日と新聞掲載が同日、なんと不思議な巡り合わせでしょう！。それは忘れられない戦争体験を、次の世代につなぐ、まさに平和のバトンでありました。

今年は女性が日本で初めて参政権を行使してから75年がたち、女性議員増が話題になっています。私が学園に勤務し始めた頃、理事のなかに高良とみ氏がおられました。女史は戦後女性初の代議士です。時々学園やホームにお見えになり、私達にも適切なアドバイスを下さいました。とりわけダウン症や虚弱体質の子供には、「声かけ」を沢山して励ましてやっせて下さいと言っておられました。春の遠足には真鶴のご自宅に「たけのこほり」をご招待して下さったりして、学園の心強い応援者「高良のおばちやま」でありました。

ある年の夏、鳥取臨海学校に高良さんが見えになりました。「土佐が3人揃った」と

澤田先生はとても喜ばれ、海辺で3人手をたないで写真を撮って頂いたことなど、懐かしく思い出します。高良さんはヒラヒラのスカートが付いた水着に、つばの広い帽子をかぶり、夏を楽しんでおられました。70歳はすでに過ぎていたと思いますが、いつもニコニコ笑顔で、子供たちともよく交わり、快活に数日を過ごしてお帰りになりました。拘りがなく、心の広い大らかな方にお見受けしました。

最近、書棚の中から「この時代に生かされて」——高良とみをおくる——を見つけ、読み返してみると、澤田先生との関係は、お父様が土佐の郷土の出で、東京大学に進まれ、岩崎久弥氏の家庭教師をされていて、後にペンシルバニア大学にお二人で留学されています。父親同士が同郷のよしみで交流を持ち、澤田先生との関係をつのらせていたと思われまふ。日本女子大学を卒業され、アメリカのコロナビア大学院、ジョンズホプキンス大学院に進み、ドクターオブフィロソフィの学位を得て帰国し、アジアと世界の平和を志し、長い人生を歩まれました。タゴールや魯迅との交流も女史の人柄の大きさを物語っています。また敬虔なクリスチャンでもありました。このように長い学園勤務を通して知り得た沢田の方々、その生きざまに改めて敬意を表します。創立者の夢と志、そのバトンを支え受け継いだ多くの関係者、教職員たちのご尽力に勇気づけられ、聖ステパノ学園は、これからも新たな地平を目指して進んでいくことでしょう。

保健室を守る二人の先生から

保健指導のかたち

養護教諭 土橋 久美子

数年来、保健室から子どもたちへの保健指導について検討しています。保健室にいて子どもたちの来室を待っているだけでは見えてくる健康課題に偏りが出たり、正確さに欠けたりしがちです。健康診断の結果を踏まえた保健指導などは個人を対象にしたもので、もちろん現在の健康の保持増進のために重要なことではありませんが、現状を踏まえて今後子どもたちが生きていく上で誰にでも知っておいて欲しい「生活」や「健康」に関することからはやや離れます。ステパノの子どもたちに必要な健康指導は何だろうと、私の大きな課題となっています。

しかし、昨年度からの新型コロナウイルスの流行により、感染症対策のための保健指導が不可欠となりました。全体に向けての指導は、昨年度の休校前に全校児童生徒が集まった場で行いました。人が多い場所を避けることやマスクをつけること、正しい咳エチケット、帰宅したら手を洗うことを指導しました。経験したことのない事態に、子どもたちの表情は真剣でした。その後、登校が再開してからは子どもたちを集めることができなかつたため、正しいマスクのつけ方や手洗いの仕方イラストを教室に掲示してもらい、子どもたちへの指導を行いました。

現在は、朝の職員の打ち合わせの際に、保健室からのお知らせとしてその時々々の天候や子どもたちの動きに合わせた注意事項を全職員で共有し、子どもたちへの保健指導を行っています。保健指導は、養護教諭が直接子どもたちに対して行うものだという認識でしたが、その時々でできること・効果的な方法は変わっていきます。固定概念に捉われないことなく、保健指導の内容・形を模索していきたいと思えます。

保健室の関わりの中で

看護師 上川 隆子

毎日、色々なことで子どもたちは保健室に来てくれます。「お腹が痛い」「転んだ」「ぶつけた」「周りがうるさくて、頭が痛くなった」など様々です。感じ方もそれぞれで、来た時には、ぶつけた足を引きずり半泣きでも、「腫れなし、変色なし、ここは動かせるね、良かった」と少し大袈裟に伝えただけで、軽快な足取りで帰っていくこともあれば、治って貼る必要がない絆創膏を、貼って欲しいと来ることもあります。又成長を感じることもよくあります。痛みや原因の表現が上手くなっていたり、人間関係の悩みに対し「気にしないようにしていたら、大丈夫になってきた。」とセルフコントロールの欠片を覗かせたり、ほんの短い保健室の関わりの中でも、こんなに変わるのだなど、日々驚きや発見があります。

医療機関に勤めていた頃に、まず求められたのは、標準化された看護を一律に提供できるということでした。しかし保健室では、よく見てよく聞き、本質を捉えること、今だけで捉えず、成長過程において、どういうアプローチが必要なのか、子どもによつて、全く違う関わり方が必要だと感じるようになりました。そういう関わり方ができるよう、子どもたちと一緒に、自分自身も成長する必要があります。

また、保健室に来るといふことは、自分の体や心に関心を持ち、それを表現するということでもあり、自分自身の存在が大切であることを、認識することに繋がる側面があると思えます。受け入れられていると実感できるような、雰囲気づくりや環境づくりに努め、安心して利用してもらえよう取り組みたいと思えます。

『ステパノの皆さんとの二か月のこと』

教諭 栗原 詩津子

「ステパノは楽しい？」と、ある生徒さんに聞かれました。私が「楽しいよ」と答えるのと「私も楽しいんだ」と答えてくれたのが印象に残っています。その時は詳しく答えることはできなかったのですが、折角頂いたスペースでのんびり回答してみようかと思えます。

ステパノでの教員生活は、慣れないことが多くあり大変です。ですが、様々な場面でステパノの小さな先輩の中学生の皆さんに助けられています。まず生まれて初めての給食。

準備も片付けも全くわからず、牛乳パックの片付け方を教えてくださったのは中学一年生の皆さんです。本当にありがとうございます。そして授業。ページや番号間違いに即座に気が付いてくれるのはしつかり者の中学二年生の皆さん。それから機械。プロジェクトの設定の直し方を教えてくれたのは中学三年生の皆さん。そして挨拶は未だに「お願い致します」と「よろしくお願いします」が混ざってしまいます。温かく見守ってください…。

そんな風に皆さんと過ごす学校生活は私自身はとても楽しいです。始業式の翌日には、名前を覚えてくれた生徒さんがいたこと。入学式後に「社会科が好きなのでよろしくお願致します」と言ってくれた生徒さん。授業で「東海道五十三次を旅する費用は？」

という思いも寄らない質問を貰うこと。授業で持ってきた写真に「行きたい！」と素直な反応を貰ったり、アンケートや文を書いてもらうと「その発想はなかった！」という回答や、素敵な感性の回答をもらえること。一つ一つが楽しくて素敵な記憶です。

教員一年目からこの学校で皆さんの先生になれたことがとってもラッキーだと感じています。此処から先も行事、試験、それから教員としての色々な仕事。不慣れなことの連続です。ですが、皆さんと共に学びながら頑張っています。長くなりましたが最後に結論を。「ステパノはとても楽しいよ」。

『時になんか美しい神の御業』

教諭 佐々木 心

ステパノでの歩みが始まってから、早くも二カ月が経とうとしています。パリパリの制服に、大きなランドセルを背負う新一年生を教員として初めて迎えた入学礼拝式の日から私自身も新入生とともに多くの「初めて」に出会いました。不安や戸惑いの中で「不完全な自分が子ども達の前に立ち、何ができるのだろうか」と身も心も強張ることが幾度もありました。その度に私を支え励ましてくれる多くの存在に救われ、あつという間の二カ月間を守られて過ごすことができ、感謝です。子ども達と過ごす日々は私にとって挑戦と

発見の連続で、喜びそのものです。子ども達が新たな学びや経験にワクワクドキドキする時には、私も期待に胸が高鳴りますし、私の視線では気づけないような世界が子ども達には見えていて、思わず「ほお〜」と声が漏れることもあります。気分が落ちてしまう日も、「こんにちわ！」「さようなら〜！」「心先生ありがとう！」といった何気ない一言や、くしゃりと笑った顔、楽しい笑い声が、私の心に光りを灯してくれるのです。一つひとつに真剣で、一生懸命な彼らの眼差しとその姿は非常に尊く、イエス様の弟子たちに対する「子ども達をわたしのところに来させなさい。」との言葉の意味を沈思せずにはいられません。

つい四カ月前までは学生であった私ですが、子どもと向き合う時の最終的なエッセンスは、大学で頭に叩き込んだ知識や概念ではなく、目の前の子ども達への本気かつ丁寧な姿勢ではないでしょうか。良いことばかりではなくても無駄なものは何一つなく、すべてが糧となっていく輝きを放つからです。私はそれを、ステパノの子ども達や先生方の姿から、より学びました。

人と人との距離が物理的・心理的に離され、簡単に愛が壊されるこの時代もまた、様々なことがマイナスに感じられてしましますが、神様の大きい御計画の中では必ずプラスになるということをただ信じて祈りつつ、引き続き子ども達とともに前進したいと思えます。

「小学校」 小雨模様の中、出発した春の遠足でしたが、各々目的地に着く頃にはお天気も回復し、楽しい一日を過ごす事ができました。児童の日記をご紹介します。

きょうは、高田こうえんに行きました。さかみちをのぼったり、下ったりするのがおもしろかったです。高田こうえんのしぼふのところで、ジャンケンでんしやをしました。ルールは、かった人は先とうで、まけた人はうしろについてあるきます。おべんとうのハンバーグが一ばんおいしかったです。Sくんは、ミニトマトがおいしかったです。ちよつとだけ雨がふったけど、えんそくに行けてよかったです。(小2 SM)

今日、大いそじよう山公園に遠足に行きました。公園まで五十分歩きました。ふれあいひろばにつきました。しりようかんの中に入りました。中にはむかしの大いその物や動物のてんじ品がありました。そしてお楽しみのおべんとう。お母さんのおべんとうはおいしかったです。その後おにごっこをしました。そして帰りました。帰りも五十分かかりました。楽しかったです。(小3 OY)

今日は、遠足に行つてふれあいひろばであそびました。資料館の中も入ってみました。一ばん古いものは、入ったところにあるそう

です。中でも、一万年以上の古い『ふかばち』がおいてありました。(小4 IT)

今日は、遠足で旧吉田茂邸に行きました。庭園と邸内それぞれ、めちやくちや広かったです。ちなみに学校から目的地まで約4kmぐらいでした。

そこから大いそ運動公園まで歩き、弁当を食べました。弁当はウインナーもかまぼこも、全部『すみっこぐらし』でした。食べ終わったら、自由行動で長い時間遊びました。ぼくはボルタリングやロープで登るもので遊びました。(小5 SP)

今日は、春の遠足がありました!!最初に旧吉田茂邸に行きました。と歩で行きました。僕は三班で、Aグループだったので、邸内から見学しました。マットがふかふかでした。しおりには、兜門や吉田茂像、舟形風呂などの吉田茂とゆかりのある物を探して、見つけて学びました。僕の班は、血統書を見忘れてしまいました。今度はプライベートで来て、ゆつくり一個一個見ていきたいです!!次に、大磯運動公園に行きました。皆でお弁当を食べました!!今日のお弁当は豚丼でした!!母がつくってくれました!!うまかったです!!(後略)(小6 IH)

今日は春の遠足に参加しました。目的地は旧吉田茂邸と大磯運動公園です。

僕が一番印象に残ったのは、2階にあった“脱出口”です。敵や強盗がせめて来た時、吉田茂はその穴から下りて難を逃れたそうです。ちなみにその穴はちゅう車場につながっていて、そのまま車で逃げることも可能でした。やはり、そういう所に“セレブな感じ”を感じました。

この旅で一番おもしろかったのは、Aちゃんが「私、吉田茂に会った事あるよ!!」と自慢してきたことです。Jが「まだ咲間先生も恵先生も生まれていない時代にAちゃんが生まれてるわけないでしょ。」とすばやくツッコミを入れました。でも「私は生まれてたんだよ。」と、一人で10分くらいしようもない話を続けていました。こんなの、どっちかが降参するまで終わらないよ...と思っていました。Jがとうとう「ハイハイ」でその話を切りました。

問題なのは帰ります。行き&吉田茂の勉強&サッカーで、もうヘトヘトです。Yと足に力を入れたり、フニャフニャ歩いたり、インサイド歩き...など色々試しましたが、それで結果が変わるわけではありません。学校が見えた時にはすぐ二人で喜んで、おかしは何だろう!!ときたいしていました。そうしたらなんと、家にあるゼリーが出て来ました(笑)(でもおいしかった)

めちやめちやつかれたけれど、知識をちょっぴり持って帰れたし、公園でも遊べたし、最高の日でした。(小6 HU)

「中学校始業から二カ月。一年生も、すっかり中学校生活のリズムに慣れたようです。生徒たちの日記から。」

5月12日(水)

今日は、体育で空手をやりました。初めて空手をやったのできん張りました。自分の兄も昔やっていたので、ぼくもできると思いました。腕を上げてそのままにいるなど、そういう練習をして、とてもつらかったです。何かやったら慣れてきました。うまくいけそうです。来週も頑張ります。(中1 SS)

5月19日(水)

今日は、委員会がありました。今回は新しい企画を立てて、新聞を作ろうと思います。僕は、「豆知識」をやります。今、起きているできごとのニュースや、コロナのことや、テレビの番組のことを書きます。しかし、まだ、クラスのみんなや先生にも僕の選んだものは話せないなので、楽しみにしててください。(中1 KH)

5月22日(土)

昨日、中二の一学期中間テストの範囲表が配られました。今回の範囲も、期末ほどではないけど多そうです。それでも、頑張つてテスト勉強します。今年度初めてのテスト、緊張するけど、今出せる私の全力を出そうと思います。(中2 MM)

5月23日(日)

今日は、家の庭のみかんの葉に、アゲハの幼虫がいたのを母が見つけました。家のみかんの葉に、アゲハの幼虫がいたのは初めてです。鳥に食べられてしまうので、家の中に入れました。家で見るとよく動いています。元気そうでよかったです。

家のみかんの葉っぱだけでは足りないのですが近くの神社から採ってきてくれました。父が採ってきてくれたみかんの葉も、たくさん食べていたのでよかったです。チョウになるのが楽しみです。(中3 TM)

5月25日(火)

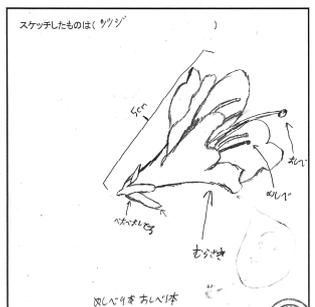
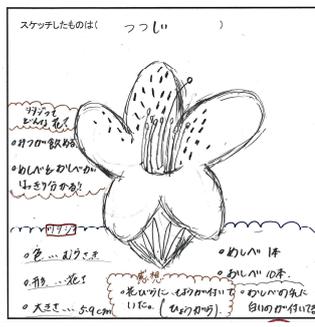
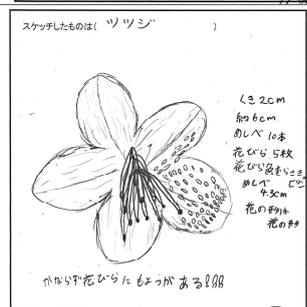
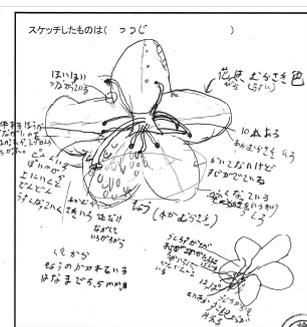
今日の朝、K君とA君と一緒に、日光浴をしました。小川学園長先生が前に、「日光を浴びると元気になります。」とおっしゃっていました。やってみたらとても暖かくて、気持ちが前向きになりました。帰宅して、英語のテスト勉強をがんばりました。(中2 YK)

5月25日(火)

今日は、体育の授業で走り幅跳びをやりました。今回は足を抱え込むようにしてジャンプすることが全体での目標でした。先生からも言われましたが、自分で、自分が跳んでいるときの動画を見てみると、ジャンプをする時に手を何にも使っていないで、足だけで跳んでいたの、私は、全体の目標もそうです、手を使って跳ぶことを目標に練習しまし

た。ところが、走ってきて跳ぶ瞬間になると、手を使うことを忘れてしまい、いつも通り、足だけで跳んでしまいました。完全にこれが癖になってしまっているの、手を使うことを意識して、足だけで跳ばないように気をつけたいです。(中3 AN)

理科では、この時期に花のスケッチをします。見慣れた花でも、思い込みを捨てて、よく観察することで新しい発見があります。この日は花卉が1枚か5枚かで盛り上がりました。



ツツジの花のスケッチ(中1)



散策の心地よい季節になりました。外出の自粛期間は続きますが、大磯に新しくできたスポットをご紹介します。

【明治記念大磯邸園】月曜日休園

大磯には、伊藤博文元首相や吉田茂元首相など、多くの政財界人や文化人が居を構えた歴史がありますが、旧大隈重信別邸と陸奥宗光邸跡（いずれも旧古河別邸）が整備され、明治以降の近代化の歩みを次世代に伝える「明治一五〇年」関連施策の一環として、昨秋から公開されています。現在は敷地内の庭園散策のみ可能ですが、竹林、小さなバラ園、龍頭ノ大島桜（つぼみが龍の頭のように見えます）という珍しい種の桜の木、千手観音のように八方に伸びる枝を持つ楠木などもあり、ベンチに座って木々を眺めるだけでも、穏やかな時間を感じます。また、風呂好きの大隈重信が使用した五右衛門風呂や、相撲好きの古河家三代当主・古河虎之助が敷地内に作った土俵跡など、ここに暮らした主の人柄や暮らしを垣間見ることが出来ます。建物内部も改修が出来次第公開の予定、旧伊藤博文邸（滄浪閣）も含めて、二〇二四年の全面開園に向けて更に整備が進められるそうです。

【OISO CONNECT 大磯ユネクト】水曜日定休

老朽化した漁協施設の建て替えに伴い、商業機能も併設した新たな観光拠点として、二〇二一年四月に開業しました。

海と漁船が大開口の窓に映える港らしい景色を眺めながら買い物を楽しむことのできる店舗が建物の一階部分です。イクスに泳ぐ当日朝に捕れた魚、地場野菜の販売もあります。

地域創生の新しいモデルとして、群馬県道の駅で成功を収めた第三セクター「田園プラザ川場」が運営を行うことから、大磯近隣の商品に加え、川場で人気のチーズやヨーグルト、オリジナルのビールなども並びます。軽食コーナーのフィッシュバーガーは、地魚フライに、群馬の特産である蒟蒻と沢庵漬けが具材に使われたタルタルソースが添えられ、両地域の食材コラボレーションのメニューです。二階のカフェレストランでは、地場食材を活かした料理を、相模湾を臨むテラス席でも楽しむことができます。

大型船舶に加え、プレジャーボートの接岸もできるよう新たに整備されたビクターバース（海の駅）は、災害時の救援や物資運搬を陸路に代わり担う役割も想定されており、安全管理の機能も併せ持つ港に刷新されました。



明治記念大磯邸園



OISO CONNECT

【表彰】

STEPHEN'S NEWS

○第67回全日本中学校通信陸上競技
神奈川県西部地区予選大会
兼

第69回西湘地区中学校対抗陸上
競技大会

男子共通砲丸投げ

第7位記録 8 m 71

中3 T・R

※7/17・18

県大会出場権獲得



【編集後記】

学校の紫陽花が咲き揃う季節となりました。この時期は爽やかな晴れの日、大雨の日、寒暖差のある日など様々ですが、子どもたちは晴れの日には外でめいっぱい遊び、雨の日には元気に体育館で遊んだり、教室で友達と楽しそうに話をしたり、みんなこの季節を上手に過ごしています。(ひ)



代表者 学園長 小川 正夫

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

ステパノだより編集委員会

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯868

TEL 0463-61-1298
FAX 0463-61-9739

<http://www.stephen-oiso.ed.jp>

二〇二一年六月十一日（金）発行 第255号